

## 地域中学生がエントリオを訪問 ウルフドッグス名古屋の選手OBが「働く」について講演

3月22日、清須市春日中学校の2年生56名が、ウルフドッグス名古屋のホームアリーナ“豊田合成記念体育館 エントリオ”を来訪し、選手OBによる講演やバレーボール体験を行いました。これは、「働く人から学ぶ」をテーマとした中学2年生の進路学習において、現在スクールコーチとして活躍する選手OBからクラブ運営・スポーツに携わる仕事について学び、将来の進路や生き方に繋げると共に、生徒とバレーボールを通じた触れ合い交流を目的としたものです。

講師を務めた黒澤コーチは、偏愛マップ(あらゆるジャンルで自分の好きなものを視覚的に伝えるマップ)を用いた自己紹介を行い、「たくさんものに触れ、自分の好きなことをみつけることが大事。」と伝え、好きなバレーボールを継続したことで進路を見出すことができた自身のキャリアを振り返り、大切にしてきたことやスポーツを通じて学んだことなどを語りました。また、講演後には黒澤コーチら指導によるバレーボール体験を行い、生徒全員がバレーボールを楽しみました。

参加した生徒からは、「様々なことに関心を持ち、好きなことを仕事にできるようにになりたい。」「バレーボールは授業でしか体験したことがなかったが、コーチにレシーブ方法などのポイントを教わり楽しめた。」と、笑顔で答えてくれました。

今後もウルフドッグス名古屋は、「ボールを繋ぐ競技」であるバレーボールを通じた地域貢献活動で、“人と人・人と地域・地域と世界”を繋げ、笑顔と元気をお届けするチームを目指してまいります。

### □当日の様子



自身のキャリアについて語る黒澤コーチ



コーチの指導に耳を傾ける生徒たち



スパイク練習では生徒一人ずつにアドバイス



エントリオでの課外学習に参加した春日中学2年生の皆さん